ランチョンセミナー(抄録)

“上気道感染症のガイドライン”
小児急性中耳炎診療ガイドライン

飯野 ゆき子

自治医大さいたま医療センター

2006年，日本耳科学会，日本小児耳鼻咽喉科学会，日本耳鼻咽喉科感染症研究会が“小児急性中耳炎診療ガイドライン”を作成した．欧米各国においても小児急性中耳炎に関する数々のガイドラインが作成されている．しかし各国において，急性中耳炎の起炎菌の検出頻度あるいはその薬剤耐性頻度は異なるため独自のガイドラインが必要であることはいうまでもない．その後日本ではこのガイドラインにそった小児急性中耳炎の治療法が診療の場でかなり定着し，また種々の学術集会においてもその検証に関する演題が出題されてきた．しかし各種細菌の薬剤耐性は日々変化し，さらに新しいエビデンスが次々と発表される現在，このガイドラインは定期的に改訂する必要がある．そのような背景から初版発行から3年を経て2009年第2版が発行された．この改訂版と初版の重要な変更点は，重症度分類に用いる症状・所見とスコアによる重症度判定基準の変更である．また点耳薬の使用に関するクリニカルクエスチョンを追加し，さらに“反復性中耳炎の診療についての提案”を追記として加えた．本ガイドラインは，新しく発表されるエビデンスを系統的に把握してレビューを行い，3～5年を目標に更新を行う予定である．すでに第3版の作成に向けて小児急性中耳炎診療ガイドライン委員会は作業を開始した．

本ランチョンセミナーでは2009年度版の詳細を解説するとともに，今後の改訂のポイントに関しても述べてみたい．